



情報過剰時代は、逆説的であるが情報自体に説得力が求められる。このため重宝されるのが統計数値であるが、怪しげな数値が数多く見受けられる。政府が発表する試算値も例外ではない。今回は、政府が TPP 参加のために発表した「TPP 参加の経済効果」の試算値を題材に、注意を喚起したい。

### 第三十三話 統計数値に注意する ②政府発表の試算値に注意せよ

我々は、政府発表の試算値には、十分な注意を払う必要がある。政府の意図した方向に国民を誘導しようとする意図が、潜んでいるからである。残念ながら、それが分かっているが、適切に対処することはなかなか難しい。「政府発表」という権威は、試算値に潜む怪しげな論理を、強引に正当化してしまうからである。

そうはいつても、怪しげな試算値については、そのカラクリを見抜くリテラシーを持つことが、我々には求められている。ウェブの時代は、政府発表の試算値に関して、様々な情報や資料が簡単に入手できる。これらを比較参照して、その信憑性をチェックする姿勢が大切である。

そもそも、政府発表の試算値は、単純化していえば、客観的な数字を事実に基づいて下から論理的に積み上げて算出されるものではない。政策の推進に役立つように、上からブレークダウンし辻褄が合うように算出される数値とってよい。

更に、政府の試算値をチェックする上で重要なのは、政府、与党、関係省庁との力関係など、彼らの間での様々な駆け引きの結果として、公表数値が出来上がるという点に留意することである。試算値の作成に、誰の意図が最も影響力を行使していたかを見抜くことが、一番大切なのである。

政府試算値について、もう一点注意すべきは、マスコミ各社の姿勢である。マスコミ各社は、政府発表の内容に、それぞれ意図的なバイアスをかけている。

日本のマスコミ各社は、客観性を標榜しながら、自社の主張を陰に陽に記事や解説に潜ませ、それを視聴者に訴えようとしている。この情報操作は、新聞や TV の

ニュースの見出しや解説の部分でなされる。

さらに、マスコミ各社は、政権のマスコミに対する政治圧力と、その時々々の世論の動向との狭間で、論調を変えている点についても、きちっと見ていく必要がある。確たる主張を持って、記事を書いているわけでは決していない。

今回の TPP 参加の是非にかかわる政府公表の「TPP 参加の経済効果」の試算値は、以上の問題点を理解する上で、大変わかりやすいサンプルとなっている。それは、複数の相異なる試算値が公表されるという、異例のケースだからである。

政府発表の試算値は、今回の安倍政権の前に、菅政権の下での 2010 年 10 月に、最初の試算値が発表されている。両政権の違いは、安倍政権では政府の統一試算値のみが公表されているのに対して、菅政権では農林水産省、経済産業省、内閣府の 3 機関から 3 つの試算値が公表されている点にある。

すなわち、最初の菅政権では、菅首相のリーダーシップが発揮できず、それぞれの利益団体の意向を反映する関係省庁に独自の試算値の発表を許してしまっている。これに対して、安倍政権では安倍首相の強いリーダーシップで省庁の独走を許さず、安倍首相の意向を受けた試算値を一つだけ公表している。

両政権のもとで試算された 4 つの大きく異なる数値が、公表されていることは、試算値を計算する側の意図が先にあり、その意図を説明するためにもっともらしい数値を創り出していることを、端的に示している。

ちなみに、日本の TPP 参加の経緯と試算値については、「環太平洋戦略的経済連携協定」(ウィキペディア)に要領よくまとめられている。試算値に関するマスコミ各社や専門家の論評を調べるには、グーグルで「TPP 参加の経済効果 試算値」と検索すれば、沢山の記事や論文が検索される。

マスコミの取り上げ方は、各社のニュースの見出し(2013年3月15日付け)をみれば簡単にわかる。マスコミ各社は、賛成派、中立派、反対派の 3 つ立場に分かれ、TPP 参加が国論を二分する問題であることを反映している。

3月15日から16日にかけて一斉に報道された記事見出しを、反対派から賛成派へとメディア各社の見出しを並べてみると、「農業のダメージのみを強調」した見出しから、「国内総生産 GDP の拡大のみを強調」した見出しまで、すべて並んでいる。

具体的には、「コメなど重要品目で損失の 8 割＝農業生産、総額 3 兆円減－TPP で新試算・政府」(時事通信社)、「農業打撃、数兆円規模 TPP 政府試算」(共同通信)、「TPP、関税ゼロなら農業打撃 GDP は増加 政府試算」(朝日新聞)、「TPP 参加で『GDP3.2 兆円』拡大 政府試算」(産経新聞)、「TPP 参加、実質 GDP を 3.2 兆円押し上げ 政府が試算公表」(日経新聞)といった具合である。

最後に、これらの試算値は、スポーツ解説者の事前予想と全く同列の類であることを指摘しておきたい。これからの事態は誰にも分からないのである。また、いずれの試算値が正しかったかを後日検証するような行為は、全く無意味であることも指摘しておきたい。